

深いアクティブラーニングを創発させる 学習評価とテクノロジー

— Learning Catalyticsを中心に —

Learning Assessment and Technology to Enhance Deep Active-Learning:
Focusing on Learning Catalytics

アクティブラーニングは、現在、日本の大学に普及しつつありますが、いくら活動がアクティブでも、内容の深い理解が伴わなければ、大学教育としては物足りません。いま必要なのは、「深いアクティブラーニング (Deep Active-Learning)」です。このワークショップでは、ハーバード大学のエリック・マズール教授をお招きし、「深いアクティブラーニング」のための学習評価とテクノロジーのあり方をさぐります。

深いアクティブラーニングの研究・実践として世界的に注目されているのが、マズール教授グループによって開発された「ピア・インストラクション」と、クラウドベースの学習分析・評価システム「Learning Catalytics」です。昨年のシンポジウムでは、クリッカーを使ったピア・インストラクションについて学びました。今年は、マズール教授による最新のTBL/PBL (チームベース学習/プロジェクトベース学習) の実践を紹介していただきながら、Learning Catalyticsを使った授業と学習評価について、ワークショップ形式で学びます。

Learning Catalyticsとは・・・

マズール教授グループによって開発されたクラウドベースの学習分析・評価システム。クリッカー以外のデジタルツール (スマホ、タブレット端末、ノートパソコンなど) でもレスポンスシステムとして使用でき、多肢選択式以外の問題も出題・回答・回答分布表示が可能で、グループ編成のための情報をリアルタイムで教員にフィードバックできる。いわばクリッカーの進化形。

2013年10月10日 (木)

14:00~17:30 (受付 13:30~)

会場：キャンパスプラザ京都・2Fホール

〒600-8216 京都市下京区西洞院通塩小路下る

定員80名 (先着順)

参加費無料/同時通訳あり

申込方法：下記URLよりお申込み下さい

http://www.highedu.kyoto-u.ac.jp/inter_sympo/20131010/index.html



Prof. Eric Mazur

ハーバード大学教授 (物理学・応用物理学)。同大学応用物理学部長。専門の光物性の研究と並んで、教育研究でも国際的に知られる。大規模講義における双方向的な教授法として開発されたピア・インストラクション (Peer Instruction) は、現在では世界各地で実践されている。2011年には、Dr. Brian Lukoff、Prof. Gary KingとともにLearning Catalyticsを開発し、今春、世界最大の教育・出版企業であるPearsonがこれを買収し話題になった。最近では、TBL/PBLの授業にも積極的に取り組んでいる。著書に、*Peer Instruction: A User's Manual* (1997)、共著書に *Peer Instruction: Making Science Engaging* (2006)、*Using JiTT with Peer Instruction* (2009) など。

深いアクティブラーニングを創発させる 学習評価とテクノロジー

— Learning Catalyticsを中心に —

Learning Assessment and Technology to Enhance Deep Active-Learning:
Focusing on Learning Catalytics

タイムテーブル

14:00 開会挨拶 大塚 雄作 (京都大学高等教育研究開発推進センター長)
趣旨説明 松下 佳代 (京都大学高等教育研究開発推進センター教授)

14:10 講演+ワークショップ Prof. Eric Mazur (Harvard University)

「学びにおけるイノベーションの促進:

PBL、TBL、Learning Catalyticsを巡って」(予定)

“Promoting Innovations in Learning:

PBL, TBL, and Learning Catalytics”

※ワークショップにはスマートフォン、タブレット、ノートパソコン等、
無線LAN対応端末をお持ち下さい。

※もし可能ならば、モバイルWi-Fiルーターも併せてお持ち下さい。

16:00 休憩

16:15 パネルディスカッション

司会: 松下 佳代

パネリスト: 飯吉 透 (京都大学高等教育研究開発推進センター教授)

溝上 慎一 (京都大学高等教育研究開発推進センター准教授)

酒井 博之 (京都大学高等教育研究開発推進センター准教授)

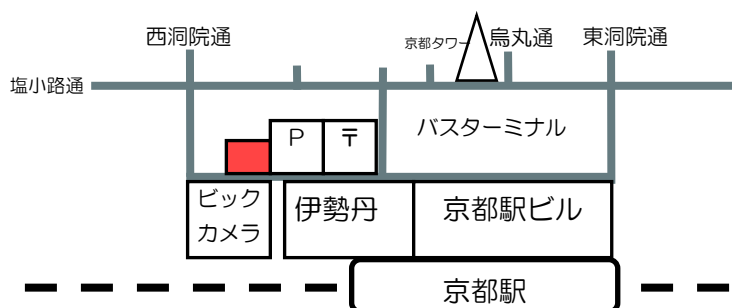
17:20 閉会挨拶 大塚 雄作

アクセス

キャンパスプラザ京都

〒600-8216 京都市下京区西洞院通塩小路下る

(JR京都駅北側ビックカメラ向かい)



問い合わせ先: 京都大学高等教育研究開発推進センター事務局 (550center@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp)